

名家連ニュース

令和2年8月11日(火)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.742号

◆◇ 第15回家族相談員スキルアップ研修会 ◇◇



標記研修会が8月5日(土)13:30～16:00、名古屋市精神保健センター5階研修室で開催されました。今年度はコロナウイルス感染拡大のため、参加人数を制限し、22名の会員と講師の社会福祉法人親愛の里・ジョブサポートフォルテ所長片桐雄介様、ジョブサポートフォルテの職員の方と日福大の実習生の25名の参加でした。窓を開けて換気する一方、エアコンの設定温度を下げて、熱中症にも注意しました。

「私の体験～生活相談の心得～」と題する講義の前半は、障がい特性の具体的な対応方法と相談ポイント、後半は簡単なワークと事例、そして支援者としての心構えをお話ししていただきました。

相談(共感)とは相手の気持ちを汲むことであり、そこから支援につなげていく。情報提供だけで終るのではなく、相談者の考え方、生き方、価値観を知り、必要な支援や課題を明らかにしていく。ということ学びました。

リフレーミングのワークでは、否定的なイメージを持ちやすい表現を肯定的な意図や意味に置き換える練習をしました。皆さんも相談時には是非活用してください。

例 優柔不断→慎重

依存的→甘え上手

口下手→じっくり考える

相手に合わせられない→自分の主張や考えを持っている

リフレーミングとは

ある出来事や物事を今の見方とは違った見方をすることで、それらの意味を変化させて、気分や感情を変えること

参加者の感想より：

今回のスキルアップ研修会における片桐雄介所長による講義は、ご自身が体験された事例を紹介しながらのお話で、大変理解しやすいものでした。

精神の障がいを持つ人とのコミュニケーション、相談では、支援者の発する言葉によって、気分を損なうこともあり、相手の気持ちをよく考えて、言葉を選び会話することが大事なことである。また、つい、こちらの思い込みでの応答にも要注意です。と、学びました。リフレーミングでは、日頃の会話の中でも、肯定的な表現の言葉を使うことに心がけることが大切であると思いました。今回の講義では、電話相談にも繋がる心得を習得させていただきました。